

令和6年度

入試問題集

国語

学校法人藍野大学
明浄学院高等学校

以下の【一】～【四】の字数制限のある問題はすべて句読点や記号も字数に含めて数えること。

【一】 語句に関する次の問いに答えなさい。

問一 次の①～⑤の語がそれぞれ対義語となるよう空欄部□に入る漢字を答えなさい。

- | | | | | |
|---|----|--|---|---|
| ① | 抽象 | | □ | 体 |
| ② | 精密 | | □ | 粗 |
| ③ | 膨張 | | □ | 収 |
| ④ | 必然 | | □ | 然 |
| ⑤ | 促進 | | □ | 抑 |

問二 次の①～⑤のことわざに最も近い意味のことわざを後のア～オの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① のれんに腕押し
- ② 弘法にも筆のあやまり
- ③ 二兎を追う者は一兎をも得ず
- ④ 備えあれば憂いなし
- ⑤ 猫に小判

- ア 河童かっぱの川流れ
- イ 虻蜂あぶはちとらず
- ウ 犬に論語
- エ 転ばぬ先の杖つえ
- オ ぬかに釘くぎ

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

どうして日本人には「自分の頭でちゃんと考えようとしなさい」という傾向が強く見受けられるようになったのでしょうか。その傾向は大昔から日本人の長い歴史のなかで積み上げられてきたものだと考えられます。

極東に位置する日本は大昔から、中国でできあがった文化や技術の一番いいところを自分たちの暮らしのなかに取り入れてきました。自国でクローして一から生み出さなくても、となりの隋や唐などに行けば欲しいものを見つけることができました。日本は「必要なものがあつたら、(A) いいものを持っている国から持ってきて真似る方が効率的だ」ということを何百年という時間をかけて学んでしまったのです。

その結果、「新しいものを一から生み出すまでには、どんなにたくさん失敗があり、その失敗から学び取った知識やノウハウが蓄積されているか」ということに気づくこともなく、自分でちゃんと考えようともせずに「結果だけ真似すれば事足りる」という傾向が強くなったのだと思います。

さらに江戸時代が終焉を迎える頃から、この傾向はより強くなっていきます。

明治維新以来、日本は当時の先進国である欧米列強に追随し、その文化や経済、科学技術などあらゆる面で、そのまま真似することが国を進歩させることだと信じるようになりました。

確かに、その成果として、当時の日本は目覚ましい発展を遂げました。しかし、一方で、できるかぎり短期間で真似することを重視するあまり、日本独自の文化や文明を築き上げるための創造性については軽視されました。結果、明治維新以降の日本では、創造性を育むような努力は行われず、そのような文化や環境も整いませんでした。

明治維新はほかにも弊害をもたらしました。

「前に『こうすればうまくいく』と決められたことは疑わず、何も考えず、そのままやるのが一番いい」という文化をつくってしまったことです。

この「I」をしていけばいい」という文化は、その後の日本の「教育」に色濃く影響しました。

今の学生が受けている教育の大半は「自分で考えるのではなく、(B)先生の言うことを聞いて勉強すること」を求めます。その教育を受けるゲンバである学校の試験問題には必ず正解があり、その正解に早く到達できたひとが良い成績をおさめて、試験に合格することになります。

つまり、日本の小・中・高・大学の受験のほとんどが「優等生の選抜試験」になっているのです。

ただ、「優等生」とは言っても、残念ながら「自分の頭で考えて創造性のある成果が出せる優れた人材」ではありません。「言われた通りの勉強方法で大量の正解を暗記できた記憶力の良い生徒」という意味です。

このような教育のもとで育った優等生たちは、自分の頭で考えることはあまりなく、ただ、頭は「メモリー」としてリヨウされ、膨大な知識が詰め込まれています。

(畑村洋太郎『やらかした時にどうするか』による)

問一 二重傍線部①②⑤の漢字をひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 傍線部 a 「強く」、c 「何百年」、d 「生み出す」の品詞名を次のア～カの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 動詞 イ 形容詞 ウ 形容動詞 エ 名詞 オ 副詞 カ 連体詞

問三 空欄部 (A) (B) に入る語として最も適切なものを次のア～エの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア さらに イ すでに ウ たちまち エ とにかく

問四 傍線部 b 「効率的」の意味として最も適切なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 物事に無駄が生じていること イ 物事が無駄なく行われること

ウ 論理や道理に合っていること エ 論理や道理に合っていないこと

問五 傍線部 e 「この傾向はより強くなつていきます」とありますが、どのような傾向ですか。本文中より十三字で抜き出しなさい。

問六 傍線部 f 「明治維新はほかにも弊害をもたらしました」とありますが、一つ目の弊害とはどういうことですか。本文中の語句を用いて、三十字以上四十字以内で説明しなさい。ただし、文末は「こと。」で終わること。

問七 空欄部 I に入る適切な語句を本文中より七字で抜き出しなさい。

問八 本文の内容に合致するものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日本人の昔からの真似する傾向は、その後の日本の「教育」にも色濃く影響し、膨大な知識が詰め込まれているだけである。

イ 日本人は性格の穏やかな人種であるため、他国の文化や技術を自分たちの暮らしのなかに取り入れることができた。

ウ 日本の「優等生」を生み出す教育は、文化や経済、科学技術などあらゆる面で勝負できる力を持っている。

エ 日本の「優等生」を生み出す教育は、日本独自の文化や文明を築き上げることができる力を育んでいる。

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

波は押し寄せ、引いていく。永遠とも思える繰り返し。そんな光景の中に自分達はいる。長靴を履き、胸に小ビンを抱えて。

由香はミュと一緒に夕日を見つめていた。

先輩が言った通り、自分とミュちゃんの気持ちは同じ。あのあと、控室で二人きりにしてもらい、クラゲが「逃げた」わけではないことについて説明した。冷静、(A)、客観的に。だが、胸の内はそうではない。

様々な思いが渦巻いていた。

本当にこんな結末しかなかったのか。やれることがあったのではないか。いや、こんなことを考えている自分は、感情に溺^{おぼ}れているのではあるまいか。説明していても、心は乱れに乱れる。だが、そんな気持ちを抑^{おさ}え込み、事実と原因の可能性について、順を追って説明していく。

「だからね」

ミュちゃんを見つめた。

「ほんとに消えちゃったの。溶けちゃったんだよ、クラゲたち」

ミュちゃんは表情をクズ^②すことなく、黙って聞いていた。説明を終えても、何もしゃべろうとしない。黙^aったままである。しばらくしてから、小さく息をつき、独り言のように「そうなんだ」と言った。

「じゃあ、ミュ、観察日記を描かないと。最後のページになっちゃうね」

ミュちゃんはランドセルから観察日記を取り出した。次いで、クレヨンと鉛筆を取り出し、その横に置く。ページを開いた。

日記欄に書いていく。

『きょう、アクアパークに来ると、クラゲたちがいません。ゆらちゃんも、ふわちゃんも、海水にとけて、消えてしまったようです』

更には、水槽の絵も描いていく。「空っぽ」に見える水槽の絵を。(B)、空っぽに見えて、空っぽではない。ふわちゃんとゆらちゃんは、水に溶けて、そこに残っているのだから。ミュちゃんは、その「水」を描いている。そして、描き終え、クレヨンを置いた。描き上がった絵を見つめている。

「もう、会えないんだね」

その時、絵の真ん中に涙が落ちた。ぼとり。しばらくして、また、ぼとり。その涙は、「水」の絵の中へ吸い込まれていく。

「ミュ、やんなきゃならないこと、あったよね」

自分の心は、再び、乱れに乱れた。だが、それを無理やり抑え込み、ひしゃくを手取る。水槽の底辺りに淀^{よど}む水を小ビンへと詰めた。ゆらちゃんの分として一ビン。ミュちゃんへ手渡した。ふわちゃんの分として一ビン。これは自分が持った。そして、二人一緒に控室を出て、西の浜へ。

(C)、今、ミュちゃんと二人、波打ち際に立っている。

「そろそろ、戻してあげようか」

「うん」

水槽の水を海へ戻すことは、本来、好ましいことではない。だが、アクアパークの海水は、裏手の海から取水したもの。以降、バックヤードで厳密に管理され、水槽にて他の生き物の混入が無いか確かめられている。この程度なら問題ない。

大きく息をつき、小ビンの蓋^{ふた}を開けた。

ゆっくりと傾けていく。小ビンの水が、一筋、海へと滴った。夕日を受けて、きらめく。(D)、波間へと吸い込まれていく。

ジヨボ、ジヨボ、ジヨボ。

音にきらびやかさは無い。単調にして、どこか、おかしみさえ感じさせる水音が続いていた。(E)、どこまでがふわちゃんで、どこまでがゆらちゃんなのか、分かりようがない。だが、この水がクラゲ達であったことは間違いない。

ジヨボ、ジヨボ、ジヨボ。

^b悔しい。なぜ、こんな水音なのか。

頭の中は違っている。忘れようがないクラゲ達がユラ^③めいていた。いずこからともなく現れ、漂^④い、心臓のように拍動する原始的生命体——クラゲ。時にユーモラス、時に優雅。無限にして無常。人の心もユリ動かし、時の訪れと共に、はかなく消えていく。不思議なる生命体——クラゲ。

ミユちゃんがつぶやいた。

「ゆらちゃん、さよなら」

自分もつぶやいた。

「ふわちゃん、さよなら」

残り水が滴っている。そして、最後の一滴。膝元できらめいた。波間へと消える。その瞬間、ミユちゃんは身を震わせた。だが、気丈にも顔を上げる。夕日を見つめた。歯を食いしばり、何かを懸命にこらえようとしている。

小さな唇の間から、かすれ声が漏れ出た。

「ごめん。ごめん……ね」

こらえ切れなくなったらしい。ミユちゃんは自分の方を仰ぎ見た。突如、表情をクズし、しがみついてくる。

「お姉ちゃん、お姉ちゃん、お姉ちゃん」

そして、嗚咽^{おえっ}を上げた。何か言おうとしているが、うわごと^dのようにならならない。だが、その気持ちは分かる。自分も同じ気持ちなのだから。

「ミユちゃん」

しがみつかれて、体がユレた。

「ふわちゃんも、ゆらちゃんもね、元いたところに……海に戻ったんだよ」

分かっている。こんな言葉など、何の役にも立たない。むなしさが募^⑤るだけでしかないのだ。自分にできることは、一つしかない。

「分かっている。私もだから」

幼き背へと手をやる。その背をさすりつつ、由香は一緒に泣き続けた。^e

問一 二重傍線部①⑤の漢字をひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 空欄部（A）（E）に入る語として最も適切なものを次のア～オの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア かくして イ かつ ウ そして エ だが オ もはや

問三 傍線部 a 「黙ったままでいる」からどのような心理がうかがえますか。最も適切なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア クラゲたちがいなくなってしまった理由が難しく理解できず、混乱している。

イ クラゲたちがいなくなってしまった原因を適当にごまかされ、腹を立てている。

ウ クラゲたちがいなくなってしまったことに、徐々に実感が湧いてきている。

エ クラゲたちがいなくなってしまった責任を感じ、反省の言葉を考えている。

問四 傍線部 b 「悔しい。なぜ、こんな水音なのか」とありますが、どのような音ですか。最も適切なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分たちの思いとは裏腹に気の抜けたような音 イ 自分たちの回想を邪魔するような機械的な音

ウ 悲しみを増幅させるような繊細で不快な音 エ 今の自分たちの心情を表したような情緒的な音

問五 傍線部 c 「気丈」、d 「うわごと」の意味として最も適切なものを次のア～エの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

c 気丈 ア あせつてむきになるさま イ 気持ちをしっかりと保つさま

d うわごと ア 特別に優れた言葉 エ 気分が晴れ晴れしないさま

ウ わがままにふるまうさま イ ふざけて言う言葉

ウ 筋の通らない言葉 エ 堂々とした言葉

問六 傍線部 e 「由香は一緒に泣き続けた」とありますが、由香がそうした理由を解答欄の「くだから」に続くように答えなさい。

【四】 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。（原文の漢字・仮名づかいを一部改変しています。）

郭巨^{*1}は、河内^{*2}といふ所の人なり。家貧しうして、母を養^①へり。妻一人の子を生みて、三歳になれり。郭巨^aが老母、かの孫をいつくしみ、わが食事を分け与へ

けり。ある時、郭巨、妻に誦^②るやうは、「貧しければ、母の食事さへ、心に不足と思^Iひしに、その内を分けて、孫に給^{たま}はれば、乏^{とほ}しかるべし。これ、ひとへに

わが子のありし故なり。所詮、なんちと夫婦たらば、子二度あるべし、母は二度あるべからず。とかく、この子を埋みて、母をよく養ひたく思ふなり」と、

夫言ひければ、妻も、さすが悲しく思へども、夫の命に違はず、かの三歳の児を引き連れて、埋みに行き侍る。すなはち、郭巨、涙を押さへて、少し掘りたれば、

黄金の釜を掘り出せり。その釜に、不思議の文字すわれり。その文にはく、「天孝子郭巨に賜ふ、奪ふことを得ず、民取る得ず」と云々。この心は、

天道より郭巨に給はるるほどに、余人取るべからずとなり。すなはち、その釜を得て喜び、児をも埋まず、ともに帰り、母にいよいよ行を尽くせるとなり。

(『御伽草子集』による)

《注》 *1 郭巨 …… 中国の漢の時代の人。 *2 河内 …… 中国河南省、黄河以北の地。 *3 なんち …… おまえ。

*4 云々 …… 「言へり」の意。一般にあとの文を略すときに用いられる。

問一 二重傍線部①「養へり」、②「語るやう」の読み方を現代仮名づかいに直し、すべてひらがなで答えなさい。

問二 波線部Ⅰ「思ひしに」、Ⅱ「違はず」の主語として最も適切なものを次のア～エの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 郭巨 イ 老母 ウ 妻 エ 三歳の児

問三 傍線部 a 「が」と同じ用法の「が」を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 雀の子を犬君が逃がしつる イ 雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし
ウ 梅が香にのつと日の出る山路かな エ めでたくは書いて候ふが、難少々候ふ

問四 傍線部 b 「子二度あるべし、母は二度あるべからず」とはどういうことですか。解答欄の空欄に合うように答えなさい。

問五 傍線部 c 「不思議の文字すわれり」に用いられた表現技法として最も適切なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 対句 イ 擬人法 ウ 直喩 エ 倒置法

問六 傍線部 d 「民」を言い換えた語句を本文中より抜き出しなさい。

問七 傍線部 e 「天道より郭巨に給はる」とありますが、郭巨が給わったものを本文中より四字で抜き出しなさい。

問八 空欄部 に入る語を本文中より漢字一字で抜き出しなさい。

国語解答欄

四			三			二				一		
問五	問四	問一	問五	問二	問一	問六	問五	問二	問一	問二	問一	
	(が)	①	c	A	①			a	①	①	①	
問六			d	B	(え)			c		②	②	
		②	問六	C		②					②	
問七					D	(す)			d		③	③
							③			問三		
			問二		E	(ちめいて)			A	③	④	④
			I				④			B		⑤
問八				問三		(い)		問七		④		
		II			⑤				問四			
	(とらういど)	問三	問四		(る)			問八				
											受験番号	
											得点	

国語解答欄

四			三			二				一		
問五	問四	問一	問五	問二	問一	問六	問五	問二	問一	問二	問一	
イ	(例) 子はもう一度授かることができる(が)母の代わりはない () ということ。	① やしなえり	c イ	A イ	① おさ	造日(例) 性本	結 果	a イ	① 苦 労	① オ	① 具	
問六 余人		② かたるよう	d ウ	B エ	(え)	を独 育自	だ け	c エ	② ちくせき	② ア	② 雑	
問七 黄金			問六 (例) 自分とミユちゃんの気持ちは同じ	C ア	D ウ	崩 (す)	努文 力化	似 す		d ア	③ イ	③ イ
金の		問二 I ア	③ 揺	E オ	④ た だ よ	(い)	し文 な明	ば 事	問三 A イ	④ 現場	④ エ	④ 偶
釜				問三 ウ			⑤ つ の	(る)	かを っ築		足 り	B エ
問八 孝		問八 ア	II ウ	問四 ア	⑤ つ の	(る)	こ上 とげ	問七 決 め	問四 イ	⑤ 利用	受験番号	
*配点...各2点			問三 ウ	⑤ つ の			(る)	る た	め の		た こ	問八 ア
() ということ。												